# タイカンコート

氷点下施工を可能にした水系仕上げ塗材

株式会社 セブンケミカル

**従来外装仕上げ材の多くは、外気温が5℃以下での施工が困難であり、冬期特に寒冷地では施工が困難な場合が多くみられます。**

**また、寒い時期に施工可能な仕上げ材も溶剤系仕上げ材の場合は、火災・周辺環境、作業者への安全性の問題を有しています。タイカンコートはこれら従来の仕上げ材の問題点を解決する、寒冷期施工が可能な水系塗り仕上げを目標に開発されました。**

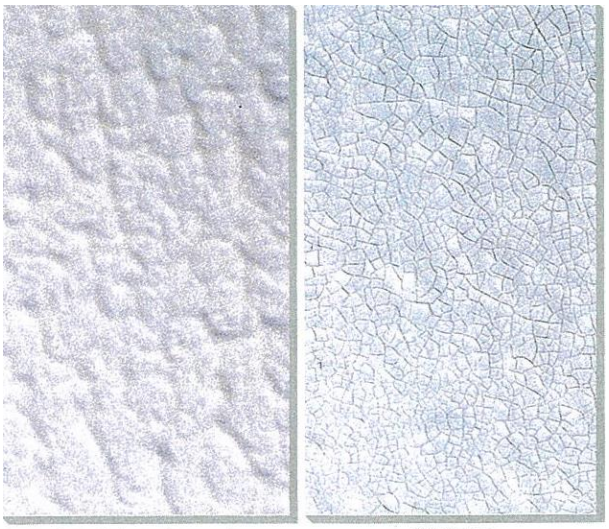
## 特徴

① 水系仕上げ材でありながら、氷点下（0～－10℃）環境での施工が可能です
② 各種の既存下地に対する密着性が優れ、下塗り材が不要です。
③ 通常2回塗りで仕上がるため、省工程で素早く仕上がります。
④ 一液型で施工及び取り扱いが容易です。
⑤ 水系化仕上げのため、安全、衛生面に優れています。

## 用途

① 集合住宅、戸建住宅、商業ビル、学校、病院、ホテル、工場などの建築物内外装
② 適用下地はコンクリート、モルタル、ALCパネル、コンクリートブロック、サイディングボードなど
③ 既存塗り仕上げ面、[複層塗材（吹付タイル）、外壁防水材、薄塗材（リシン）、厚塗材（スタッコ）など]の改修
※吸い込みの大きい面には専用下塗り材（タイカンシーラーK）を用いること

## タイカンコートの付着性



タイカンコート　　従来品

＊複層E、薄塗材E、単層弾性材は3℃にて保管し試験時に−10℃にて塗付けた。

# 試験結果

| 試験項目 | | 試験結果 タイカンコート | 試験結果 市販単層弾性材 | 試験方法及び規格値 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 低温安定性 | | 合格 | 合格 | −5℃⇔20℃繰返し3サイクル | | JIS A 6909（建築用仕上塗材）に準拠 |
| 初期乾燥によるひび割れ抵抗性 | | 合格 | 合格 | 3m／sec気流中での乾燥試験 | | |
| 付着強さ（常態）（N/cm²） | | 1.7 | 1.4 | 0.7以上 | | |
| 付着強さ（浸水）（N/cm²） | | 1.4 | 1.1 | 0.5以上 | | |
| 温冷繰り返し作用に対する抵抗性 | | 合格 | 少し膨れ | 水中⇨−20℃⇨50℃繰り返し 10サイクル | | |
| 透水性（ml） | | 0.1 | 0.1 | 0.5以下 | | |
| 耐衝撃性 | | 合格 | 合格 | 500gの重りを30cm上から落下 | | |
| 耐候性 | | 少し黄変 | 少し黄変、膨れ | ウエザオメーター1000時間照射 | | |
| 伸長性（20℃） | | 180 | 425 | 120%以上 | | |
| 伸長性（−10℃） | | 25 | 20 | 20%以上 | | |
| 低温貯蔵性（塗料凍結温度） | | −15℃で僅かに凍結 | −5℃で凍結 | 所定液温で7日間静置 | | 低温特性試験等 |
| 作業性 | 低温 | 合格 | 不可（凍結） | −5℃での塗装作業性 | | |
| 作業性 | 常温 | 合格 | 合格 | 室温での塗装作業性 | | |
| 乾燥性 | 低温 | 合格 | 凍結及び、造膜不良 | −15℃で24時間乾燥後 | | |
| 乾燥性 | 常温 | 合格 | 合格 | 常温で24時間乾燥後 | | |
| 耐水性 | 低温乾燥後 | 合格 | 少し塗膜の流出あり | −15℃,24H乾燥 | 1H浸水 | |
| 耐水性 | 常温乾燥後 | 合格 | 合格 | 20℃,24H乾燥 | | |
| 低温乾燥後の促進耐候性 | | 僅かに黄変 | 黄変、膨れ | −15℃，14日後WS 1000H | | |
| 透湿性試験 | | 70 | 30 | JIS−Z−0208（40℃） | | |

# 塗装仕様

## ローラー塗り仕上げ

| 工程 | 材料名 | 希釈（重量%） | 所要量（km/m²） | 工程間隔（H） | 施工方法 |
|---|---|---|---|---|---|
| 主材下塗り | タイカンコート | 0〜3 | 0.2〜0.4 | 5以上 | ウールローラー |
| 主材上塗り | タイカンコート | 0〜2 | 0.7〜1.0 | — | 多孔質ローラー |

## 吹付塗り仕上げ

| 工程 | 材料名 | 希釈（重量%） | 所要量（km/m²） | 工程間隔（H） | 施工方法 |
|---|---|---|---|---|---|
| 主材下塗り | タイカンコート | 0〜3 | 0.4〜0.6 | 5以上 | リシンガン 口径3〜5mm |
| 主材上塗り | タイカンコート | 0〜2 | 0.6〜0.8 | — | リシンガン 口径3〜5mm |

## ●下ごしらえ

（A）新築の場合

●下地の乾燥時間は通常コンクリートで3週間以上とし、含水率８％以下、アルカリ度Ph10以下などを目安に、仕上げ材との接着が失われないよう十分な乾燥が必要です。（特にコンクリート表層部分に水分が凍結している場合、施工後に塗膜剥離の原因となりますので注意が必要です。）

●モルタルの浮き、硬化不良、欠け（傷）、ALC板の破損、亀裂等は予め現場係員の指示を仰ぎ適切な処置を行ってください。

●下地表面に埃、セメントノロ粉、エフロレッセンス、型枠剥離剤の残存物などが付着している場合は、ワイヤーブラシ、サンダー、シンナーなどで除去清掃してください。付着物が残れば、その部分の接着力が弱くなり、付着不良や剥がれの原因となります。

●下地の不陸、目違い、突起（でっぱり、すじ、波打ち）、豆板、気泡穴などがある場合は、はつり、サンディング、モルタル補修、セメント系フィラー処理を行い、仕上模様により許容できる範囲に調整してください。

●下地のヘヤークラックは、刷毛またはゴムベラなどで、タイカンコートを拾い塗し、クラック部分は埋め込んでください。大きなクラックはUカットし、2成分ウレタン系シーリング材を充填し、更にポリマーセメントモルタルで平滑に仕上げてください。（ポリサルファイルド系などを使用するときは塗装仕上がり面まで変色させるものがありますので、十分注意してください）

●吸い込みムラを防止するために、下塗り（タイカンコートシーラーK）を塗りつけてください

（B）改修下地の場合

●下地の浮きや、強度不良になっている箇所はサイディング処理し、凹部はポリマーセメントモルタルで補修処理してください。小さなクラック（0.5mm以下）は刷毛またはゴムベラなどでタイカンコートを拾い塗し、クラック部分は埋め込んでください。大きなクラックはUカットし、2成分ウレタン系シーリング材で平滑に仕上げてください。（ポリサルファイルド系などを使用するときは塗装仕上がり面まで変色させるものがありますので、十分注意してください）

●モルタルの浮き、硬化不良、欠け（傷）、ALC板の破損、亀裂等は予め現場係員の指示を仰ぎ適切な処置を行ってください。

●下地表面に埃、セメントノロ粉、エフロレッセンス、型枠剥離剤の残存物などが付着している場合は、ワイヤーブラシ、サンダー、シンナーなどで除去清掃する。

●下地の不陸、目違い、突起（でっぱり、すじ、波うち）、豆板、気泡穴などがある場合は、はつり、サンディング、モルタル補修、セメント系フィラー処理を行い、仕上模様により許容できる範囲に調整してください。

●下地のヘヤークラックは、刷毛またはゴムベラなどで、タイカンコートを拾い塗し、クラック部分は埋め込んでください。大きなクラックはUカットし、シーリング材を充填し、更にポリマーセメントモルタルなどで平滑に仕上げてください。

## ●使用方法

1）ローラー塗り仕上げの場合

●中毛ローラーによる下塗りは所要量を塗り残しの無いよう均一に塗り付ける。

●下塗りが乾燥していることを確認後上塗りを行う。上塗りは多孔質ローラーを用い、所要量を波形の均一な模様に仕上げる。

2）吹き付け塗り仕上げの場合

●リシンガンも用い、2回塗りする。平らに薄く塗りつける。（口径3～5㎜、吹き付け圧5～7kgf/㎠）

●1回目の塗膜が乾燥したことを確認し、2回目を所要量を均一に塗り付ける。（口径3～5㎜、吹き付け圧5～7 kgf/㎠ ）

## ●施工時の気象条件

次のような気象条件の時は施工を避けてください。

●気温－10℃以下

●施工時、及び乾燥硬化過程で降雨、降雪のある場合、又は予想される時

●結露、霧、露等水分の影響が施工前後で予想される時

## ●保管上の注意

通常の水系材料に比べ凍結しにくい塗材ですが、寒冷地では凍結させないように注意して、室内に保管してください。


**お問い合わせ先**

株式会社 セブンケミカル

〒105-0011東京都港区芝公園2-4-1芝パークビルA館１２Ｆ

https://www.seven-chemical.co.jp

**TEL 03-6809-2597**

**FAX 03-6809-2598**